

焼山線 膨らむ赤字補填

歌志内市 1千万円 砂川市 500万円

【歌志内、砂川】歌志内と砂川を結ぶ北海道中央バス焼山線の利用者が減り続け、両市による赤字補填額が膨らんでいる。本年度（2013年10月～14年9月）、歌志内市は1千万円、砂川市は500万円を初めて超えた。地域の人口減もあって、収支が好転する材料は見当たらない。路線維持に向けたダイヤ見直しなどの検討も始まりそうだ。

（高田かすみ）

利用減止まらず

焼山線は1988年に廃止されたJR歌志内線の代替輸送バスとして、砂川市立病院と上歌新栄町（歌志内）間を平日1日8往復している。両市は95年度から赤字補填しており、2002年度からは国庫補助対象となった。補助上限はあるものの、赤字額のうち国が45%を支払い、残りを路線距離に応じて歌志内市が約6割、砂川市が約4割を負担している。

国庫補助対象になった02年度の利用者は約7万人だったが年々減少傾向で、本年度の利用者は4万1166人（前年度比1315人減）。本年度の赤字補填額は両市とも02年度比2・8倍となり、歌志内市は1004万円、砂川市は507万円となった。

両市はこれまで減便などについて検討したことはないが、歌志内の渡部一幸総務課長は「利用者の少ない時間帯など、実態調査が必要」という。砂川の高橋豊市民部長は「総体的に状況を見ながら、中央バスや歌志内市と相談する時期にきている」と話している。

歌志内市内は焼山線の他、滝川―赤平間を砂川、上砂川、歌志内経由で運行する中央バス歌志内線（平日1日16往復）が通っており、こちらは両市による赤字補填はない。



歌志内市内を走る北海道中央バス焼山線の路線バス